

20017

条件付き MRI 対応ペースメーカー植込み後に電圧閾値のみが異常高値を示した一例

【背景】条件付き MRI 対応ペースメーカーが使用可能となり当院でもその必要性から当初より導入しているが、植込み後に電圧閾値のみが異常高値を示した一例を経験したので報告する。【症例】65 歳、女性。ホルター心電図により洞不全症候群を認め、DDD ペースメーカー移植術を施行。術後の測定では異常無かったが、2 日後にペーシング不全を確認。ペースメーカーチェックで心房リードは問題なく、心室リード抵抗:490Ω、R 波:12.47mV に対し、双極 7.5V・1.0ms で Failure、単極 5.5V・1.0ms で capture を認めた。心室リードの脱落を疑い、同日リード調整を施行するがリードの脱落はなく、リードの抵抗が 2000Ω 以上に上昇したため新規リードに変更となった。【考察】当初、電極留置部の炎症に伴う線維化による閾値の上昇や、心室リードの脱落を疑いリードの調整を行ったがリードの脱落は否定。閾値のみが異常値を示した後、術中に抵抗が急上昇しリード自体に問題があるのではないかと考え、メーカーにリードの解析を依頼した。【結語】今回、植込み後に MRI 対応リードの不良による閾値異常を経験した。モニタリングの重要性を改めて感じた。トラブル時には患者によって適切な設定変更が必要と考えられた。